



立春を過ぎて春の日差しを感じる今日この頃は。今年度もあとわずかになりました。最後の本の購入では、今話題になっているものを選んでみました。ぜひ、図書室に足を運んでください。また、今月末までの貸出を集計して、多読賞を贈ります。

令和2年度 第9号 若松原中学校図書室



3年生の図書室の利用について

今、借りている本は2月24日（水）までに返却してください。もし、紛失した場合は、図書室の黒川厚子先生まで連絡してください。

本屋大賞

書店で働く書店員さんが、過去一年間、自分で読んで「面白かった」「お客様にすすめたい」「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票して決定します。過去の受賞作品は当校でも人気の本がたくさんあります。この機会にぜひ読んでみましょう。

過去の受賞作品

2015年	「鹿の王」上橋菜穂子 KADOKAWA
2016年	「羊と鋼の森」宮下奈都 文芸春秋
2017年	「蜂蜜と遠雷」恩田陸 幻冬舎
2018年	「かがみの孤城」辻村深月 ポプラ社
2019年	「そして、バトンは渡された」瀬尾まいこ 文芸春秋
2020年	「流浪の月」凧良ゆう 東京創元社 「アーモンド」ソウ・ウヰン 祥伝社



今年度の候補作品

「オルタネート」加藤シゲアキ 新潮社

高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。東京のとある高校を舞台に、若者たちの運命が、鮮やかに加速していきます。料理コンテストで起こった“悲劇”の後遺症に思い悩む蓉。「オルタネート」信奉者の凧津。高校を中退した尚志。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに、三人を待ち受ける未来とは一体—。新時代の青春小説。



「お探し物は図書室まで」青山 美智子
ポプラ社

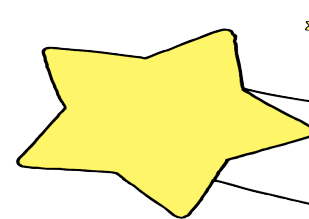
お探し物は、本ですか？仕事ですか？人生ですか？悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押しします。明日への活力が満ちていくハートウォーミング小説です。

芥川賞・直木賞

小説家の芥川龍之介と直木三十五が若くして亡くなり、親交が深く作家で出版社の文藝春秋を創設した「菊池寛」が「親しい連中が相次いで死んだ。身辺うたた荒涼たる思いである」と嘆き、才能のある作家を発掘・評価していこうと亡き友の名を冠した文学賞を作りました。

近年の受賞作品の中で図書室の蔵書

芥川賞	直木賞
「ひとり日和」青山七恵 文芸春秋	「ビタミンF」重松 清 新潮社
「火花」又吉直樹 文芸春秋	「容疑者Xの献身」東野圭吾 文芸春秋
「コンビニ人間」村田紗耶香 文芸春秋	「まほろ駅前多田便利軒」三浦しをん 文芸春秋
「しんせかい」山下澄人 新潮社	「風に舞い上がるビニールシート」森絵都 文芸春秋
「影裏」沼田真佑 文芸春秋	「下町ロケット」池井戸潤 小学館
「百年泥」石井遊佳 新潮社 新潮社	「サラバ！」西加奈子 小学館
「おらおらでひとりいぐも」若竹千佐子 文藝	「海に見える理髪店」荻原 浩 集英社
「送り火」高橋博希 文芸春秋	「蜜蜂と遠雷」恩田 陸 幻冬舎
「1R（ラウンド）1分34秒」 町屋良平 新潮社	「月の満ち欠け」佐藤正午 岩波書店
「むらさきの効トの女」 今村夏子 朝日新聞出版	「銀河鉄道の父」門井慶喜 講談社
「背高泡立草」古川真人 集英社	「宝島」真藤順文 講談社
「首里の馬」高山羽根子 新潮社	「渦」大島真寿美 文芸春秋
	「熱源」川越 宗一 文芸春秋
	「少年と犬」馳 星周 文芸春秋



2020 年下期受賞作品

直
木
賞



「心淋し川」西條奈加 集英社

江戸の千駄木町の片隅、心町（うらまち）という貧しい地域に暮らす人々を描いた6つの短編からなる小説です。全6編、縁者を持たない人や、貧しくて寄る辺ない人々の日常にスポットが当てられています。その事について作者は「今は安定した人とそうでない弱者との間ですごく分断が進んでいる。そのことが気になって、不安な境遇に置かれた人々の物語に傾いていったのかもしれない。」と語っていました。

芥
川
賞

「推し、燃ゆ」宇佐美りん 河出書房新社

主人公である、高校生のあかりは男性アイドルを応援しています。さまざまな困難や、自分自身の生きづらさを感じながらもアイドルの「推し」だけを頼みの綱として生きています。そんな中、そのアイドルの芸能界引退が発表されます。

